

## 所 信 表 明

私は、さきの町長選挙におきまして、町民の皆様の温かい御支援を賜り、粕屋町長に当選させていただきました。長引く不況の中で、社会を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、その中でこのような重責を担うことは身の引き締まる思いでございますが、36年間粕屋町役場に奉職させていただいた行政経験を活かしながら、諸課題に全力で取り組み、町民の皆様方が住んでよかったと思われる粕屋町をつくっていくために、微力ではありますが誠心誠意、努力していく決意であります。

それでは、町政運営に臨む所信の一端を申し述べ、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を切にお願いいたします。

私は今回の町長選挙におきまして「心やさしい町づくり」、「安心・安全のまちづくり」を訴えてまいりました。まず、「心やさしい町づくり」について述べます。昨今、政治は国民にとって厳しい改革を行いがちですが、政治の役割はそこに住む人間の生活を守ることにあります。町民にとって身近な存在であります町行政が、町民にただ負担を求めるだけでなく、しっかり町民の生活を直視し、きめ細かな「心やさしい」行政サービスを提供できるかということが、これから地方分権の流れの中での地方行政の役割として重要なことであると考えているところでございます。

粕屋町の人口増加率は福岡県内の市町村で一番高く、しかも若い世代が多く流入しております。そのような中で行政に対するニーズは多様化しており、町行政といたしましてもそうしたニーズに早急に応えていく必要があります。若い世代、特に子育て世代における町政への懸念として、保育園の待機児童の問題があります。粕屋町の待機児童は県内でも4番目に多く、対策が求められていますが、来年度、原町駅裏に定数100人程度の規模で民間の保育園が新設されることとなっております。その動向を見極めながら、待機児童問題の解消に取り組み、「安心して子育てのできる環境づくり」を進めてまいります。

次に教育環境でございますが、今年4月から、小学1年生の35人学級がはじまり、中央小学校では教室確保に苦慮いたしました。また、学校給食共同調理場が老朽化していること、学校給食衛生管理基準を満たしていないことから、「食の安全」を第一にその対応が急がれます。

粕屋町における小中学校の学力は向上してきておるとのことでございますが、より良い教育環境を求めて他市町に転出する例も見られるようでございます。また、昨今、国全体でも小学生から中学1年生になったとたん、学習や生活の変化になじめずに不登校となったり、いじめが急増するという現象である、い

わゆる「中1ギャップ」という問題もあります。「中1ギャップ」を解消するために、多くの自治体で「小中連携」が試行されています。併せて、学校・地域・家庭が一体となり生きる力を育む教育や、青少年の犯罪をなくす施策等に積極的に取り組んでまいります。

また、粕屋町は、急激な人口増加により、高齢化率は低い数値となっておりますが、確実に高齢化が進んでいます。高齢者が生きがいと希望をもてる環境づくりが必要であり、そして何より健康が第一でございます。本町は現在、特定健診や介護予防等の活動事業を展開しており、この活動をさらに発展、充実させるとともに、高齢者が生き活きと社会参加をしていただけるような環境の整備を図ります。

「心やさしい町づくり」のためには社会的弱者への配慮も必要です。町政を思いやりのあるものとするためにも、「乳幼児療育事業」の充実を図るとともに、町有地に知的障がい者の施設を誘致したいと考えております。また、健常者も障がい者も全ての人が互いに尊重するノーマライゼーションの理念が地域社会に根付くよう努めてまいります。

さて、今年の3月11日に起きた「東日本大震災」におきましては、東北地方から関東地方の広域にわたり想像を絶する甚大な被害をもたらしました。多くの人命が失われ、家が、工場が、そして店舗が奪われ、大変、痛ましい災害がありました。私は選挙戦におきまして、「安心・安全の町づくり」を訴えてまいったところでございますが、このような不測の事態がおきましても、住民にとって身近な行政がしっかり対応できる、そうした「災害に強い」体制を作っていく必要があると考えております。現在、粕屋町には、平成14年に策定した地域防災計画とハザードマップがありますが、今回の大震災を受け、そうしたものを早急に見直し、地域防災体制を整え、災害時にはしっかり対応できる仕組みを、地域の皆さんと共に構築していきたいと考えております。また、近年はゲリラ豪雨が日本各地で発生し、多くの被害をもたらしています。本町にも須恵川、多々良川の2級河川が流れており、浸水などの被害が憂慮されるところであります。特に多々良川に隣接する大川小学校では流水が堤防を乗り越え、浸水被害が発生しております。こうした被害を無くすためにも河川の改修など、県と協議して早急に対応に取り組んでまいります。

また、本町の犯罪発生率は、粕屋警察署管内でも最も高くなっており、防犯体制の強化が望まれているところです。現在、町内の酒殿駅と長者原駅に防犯カメラを設置し、犯罪の抑止に努めているところであります。また、その他の防犯対策についても警察署と協力しながら「安心安全のまちづくり」を進めてまいります。

今年の2月9日には、本町におきまして2人の高校生の尊い命が飲酒運転により奪われるという、大変痛ましい事故が発生しました。今なお、福岡県では飲酒運転による事故が多く発生しています。本町といたしましても、運転者のモラルの高揚を図るとともに、このような痛ましい事故を二度と起こさせないためにも、飲酒運転を撲滅するという強い決意が必要と考え、事故が発生した2月9日を「飲酒運転根絶町民運動の日」と定め、町民一体となってその運動を展開してまいります。本議会におきまして、この条例案を提出しておりますので、ご審議の程よろしくお願い申し上げます。

長引く不況は地域経済を疲弊させ、地域の活力を減退させております。地域経済の活性化は大きな課題であります。地場産業の育成・活性化と併せ、本町の交通の利便性を活かした企業誘致により雇用創出を図りながら、町民の所得を向上させ、自主財源の確保に努めてまいります。また、粕屋町は都市化が進んでいると言えども、広大な農地が存在しています。農地は、農産物を提供するという役割のみならず、国土の保全や地域の自然環境、保水等の調整機能、景観保全など多面的な役割を担っております。今話題のTPP問題については、全国の町村長によって構成される全国町村会では、農林漁業だけでなく地域経済・社会全体の崩壊を招くおそれが強いとの危機感から、TPPへの参加に対し反対を表明しているところがございます。いずれにしても大変難しい事ではありますが、本町の農業を守り育てていくためには、さらなる地産地消の推進を図るとともに、都市近郊型農業の在り方、そして後継者問題等、農協や農家の方々と協議・研究して行きたいと考えております。

また今後、粕屋町を発展させる上において重要であると考えられるのは、九大農学部付属農場の跡地利用の問題です。平成31年には移転となるわけですが、広大な土地を有効にかつ、粕屋町の実発展に貢献できるようなビジョン作りが求められています。行政といたしましても、当地の利用価値を高める為にJR篠栗線の新駅誘致について関係各所に要望をしていきたいと考えておりますが、同時に跡地の在り方について町民の皆様の意見を踏まえながら検討を行い、農場跡地の新しい町づくりについてのイメージを形作ってまいりたいと考えております。

さて、これらの政策を実行するには、財政的な裏付けが必要でございます。しかしながら、粕屋町の財政状況を見ますと、平成22年度の決算において、実質公債費比率が18.0%にまで上がり、この18.0%は地方債の発行に当たっては県の許可が必要となる数値であります。実質公債比率が高い状態が続けば、他の行政サービスに財源を回す余裕がなくなり、計画的な事業の推進に影響が出てまいります。そこで、持続可能で安定的な財政運営に努めるためにも早急

な財政改革が必要であると考えておりますが、本町におきましても、これから「財政健全化計画」の見直しとともに、諸施設の老朽化対策等、適正な資産管理に努め、将来世代にツケをまわさないためにも、財政の健全化に着実に取り組んでまいり所存でございます。

また、財政改革と同時に行政改革も行っていかなければなりません。適正かつ効率的な行政を実現するためにも、事務事業の見直しなども含めた厳格な行政評価を実施しながらコンパクトでかつ、町民にも信頼される結果重視の「強い行政」を目指していきたくて考えております。その一方で効率的にする余り、住民に対する行政サービスが疎かになってはいけません。本町ではワンストップサービスが導入されておりますので、これをさらに充実・強化を図り、より町民の視点に立ったサービスを提供することで町民満足度の向上に繋げてまいります。また、効率的な行政運営に関しては、周辺自治体との協調協力関係が必須でございます。ゴミ処理等、周辺自治体のご協力のもとに、粕屋町民の生活は支えられています。このように周辺自治体との更なる協力関係をすすめながら、粕屋町民の幸福を実現していく所存でございます。国民の幸福度が97%であるブータンが最近話題となっておりますが、私も、粕屋町民の心の幸せ度が向上するようなまちづくりを行っていきたくて考えております。

今回の町長選挙におきまして、投票率は30.13%と非常に低い結果となりました。これには、前町長の突然の退任発表により、十分な活動期間が無かったこと、また、候補者として私が町民に考えや思いを十分に伝えることができなかった力不足もあったかと考えております。他方で、近年の粕屋町への人口の流入の中で町民意識を持ってない住民が増えたのも要因として挙げられると考えております。より良い粕屋町をつくっていくためには、多くの町民が町行政に関心を持っていただき、まちづくりに関与していただくことが必要であると考えております。粕屋町のまちづくりの基本理念として「信頼と協働の町」がありますが、まさに町民の皆様が行政を信頼していただき、行政と協働してこの町を発展させていくという町づくりが「このまちに住んで良かった」と思われる粕屋町へと変えていくのであらうと考えており、より多くの町民に町民意識を持っていただく行政にしなくてはならないと痛感いたしております。そしてもう一つ粕屋町のまちづくりの基本理念である「太陽と緑の町」づくりを目標に、その実現のために自分の責任の重さとの粕屋町を良くするという使命感をしっかりと感じながら、全身全霊を以って頑張ってまいりますという事を申し述べ所信表明といたします。議員各位をはじめとして、町民の皆様や各方面の方々のご協力のもと、一歩一歩進んでまいりますので、ご指導、ご鞭撻、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

平成 23 年 12 月 9 日

粕屋町長 因 清 範